

令和 6 年 1 月 9 日

校長氏名 江口 千穂

1 学校経営計画に基づく主な取組と評価

(1) 教育活動への取組と評価

① 「自ら学ぶ子」

- 学校評価アンケート（以下、学校評価）より、「きたコン」を活用した個別最適な学び、主体的・協働的な学びの充実について、「すすんで学習に取り組んでいる」と回答した児童は91%、「児童が主体的に学べる工夫をしている」と回答した保護者は84%である。区学力調査の結果においては全学年、ほぼ目標値を5から10ポイント程度上回っている。「主体的に学習に取り組む態度」に関する設問の正答率が全学年を通して低い傾向が見られる。学習課題や問題把握、振り返りの時間等を十分に確保し問題解決的な学習を推進し、主体的に学習に取り組めるようにする。
- 「調べ・体験・まとめ・発表（表現）」する活動の充実については、体験的な活動や「きたコン」を活用した学習のまとめ及び発表活動を多く取り入れた。
- 年間通したNIE活動や区立図書館と連携した図書資料、地域教材等の積極的活用については、新聞を活用した週1回の「NIEタイム」を位置付け、児童の発達段階に応じて新聞読み比べ、新聞製作、スクラップ、新聞工作や文字探しなど多様な活動を取り入れた。

② 「心豊かな子」

- あいさつ運動やあたたかな言葉掛け等、思いやりのある心を育む心の教育・道徳教育の充実については、教育活動全体を通し心の教育・道徳教育の充実を図るとともに、いじめや不登校に対する指導の徹底に努めた。道徳授業地区公開講座では全学級授業公開を実施し、学習指導案等の資料を保護者・地域に配布、学校の取組の周知広報に努めた。
- たてわり班活動等の異学年交流活動については、子ども祭りや全校遠足等、たてわり班活動等の異学年交流の活動を計画通り実施した。学校評価では保護者の84%が「他学年との結びつきの深まり」に肯定的な回答をし、児童の98%が「思いやりをもって活動している」と回答した。地域人材等の講師を招聘し体験的に学ぶ機会の充実については、全学年で校外学習や講師を招聘しての特別授業を行った。（計16回）
- 夢や希望の実現に向け、チャレンジする姿勢を育む教育の充実については、全学年でキャリアパスポートを活用し、夢や目標をもって学校生活を充実できるよう努めた。第6学年は東京商工会議所及び東京証券取引所と連携した「起業体験ワークショップ」を通し、キャリア教育の推進に努めた。

③ 「たくましい子」

- 運動の日常化と食育等を通した健康教育、体力向上に向けた体育科授業の改善については、全学年で体育科の授業研究を実施した。王二オリンピックを体育的活動の取組として、教員がプレイリーダーとなり児童とともに遊ぶ機会を年3回設定した。短なわ週間・長なわトライ等の取組を通して、日常的に運動に親しみ、体力向上に努めた。
- 家庭と連携した健康安全に係る取組の充実については、保健だより等で健康安全についての情報発信や注意喚起を行った。校外での活動での骨折等のけがが増加していることから、地域・保護者と連携し、運動の日常化や健康安全への意識を高めていくことが課題である。
- 健康や安全に気を付けて生活しようとする態度の育成については、学校のきまりを見直し、「よくわかる！王子第二小学校」の改訂を行った。安全教育プログラム・防災ノート等を活用し、月1回の安全指導を徹底した。

(2) 重点目標への取組と評価

① 健康・安全を守る取組

- 学校評価では、「運動することや体育が好き」と回答した児童の割合は87%であった。体力調査の結

果から、第6学年においては体力合計点が10ポイント向上した。他学年においては、持久力、握力に課題が顕著であることから、引き続き体力・運動能力の低下の課題改善に向け、年間を通じた体力向上の取組日常的な体育的活動の充実を図っていく。

- 区研究協力校として体育科の授業改善等を推進するとともに、令和5年度「北区×東京ヴェルディ」体力向上プロジェクト推進校として運動好きの児童を増やしスポーツの楽しさを味わわせる「巡回スポーツプログラム」を4～6学年で実施した。研究の取組に対し、11月に全国学校体育研究優良校として表彰を受けた。
- 地域と連携し、合同防災訓練を年2回実施した。

② 個に応じた教育の充実

- 「きたコン」を活用し、全学年で情報モラル教育に係る授業を実施した。
- 「まなびポケット」やデジタル教科書のアプリ使用頻度は全体の96%の教員が日常的に活用している
- WEBQU調査やSC、SSW等と連携した相談機能の充実、巡回指導等による支援が必要な児童一人一人に応じた教育支援体制をより強化していくことが課題である。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 教育活動の充実と工夫

① 健康・安全を守る取組

- 校内研究を中核とした授業改善に努め、区研究協力校として2年間の研究成果等を報告し学校の取組を区内教員と共有、ともに研修を深める機会と場を設ける。
- 地域・保護者と連携し、体力向上の取組の日常化と、安全教育のより一層の充実を図る。
- 児童の体力・運動能力の低下の課題改善に向け、年間を通じた体力向上の取組や健康教育を実施し、日常的な体育的活動の充実と体育科の授業改善を図る。

② 個に応じた教育の充実

- 「きたコン」を活用し、個別最適な学び、主体的・協動的な学習のより一層の充実を図る。また、教科横断的な学習を推進し、児童が調べ・体験・まとめ・発表（表現）する活動を充実する。
- 特別支援教育の推進を図るため、全教職員による組織的な対応に努め、WEBQU調査やSC、SSW等と連携して相談機能を充実し、問題の解決を図る。特別支援教室における巡回指導を行い、支援が必要な児童一人一人に応じた教育支援体制を構築し特別支援教育を充実する。

(2) ウェルビーイングを高める学校づくり

① 学校全体のウェルビーイングを高める取組の充実

- 自己理解を深め自他共に大切に思える心情を養うとともに、自分のよさをさらにのばしていく取組を充実する。キャリアパスポート等を活用し「なりたい自分」をイメージさせ、授業等で日常的に自己実現を図る機会を多く設定する。
- 教育相談機能を充実させ、巡回指導教室と連携し個に応じた支援の充実を図るとともに、登校しぶりや不登校傾向のある児童についての情報の共有を徹底し、全教員が共通理解のもと支援に当たる。

② 学校の組織力の向上

- 若手教員・教育実習生の育成、学校マネジメントに全教職員が「自分ごと」として積極的に関わり、自己の強みを生かし、互いに学び合い補完し合える教職員集団として、組織全体の力量形成を図っていく。
- 課題の把握と改善に務め、「チーム学校」として学校に関わる全ての人が組織の一員としての自覚をもち、課題解決に向け何ができるのかを考え、実行していく。
- 校内外における教員研修を推進し、教育課題に対応した授業改善や教材開発を行うとともに、授業で勝負できる教員としての資質・能力、授業力の向上を図る。

③ 学校の発信力の向上

- 週1回以上、学校ホームページを更新し、迅速な情報発信に努め、教育活動への理解と協力を得る。
- 「きたコン」の効果的な活用を促進し、諸連絡等のWEB化、保護者との連絡、情報共有等を推進する。